



出店第1号の「FAR EAST KITCHEN」

このような状況の通りが、最近いろいろなメディアに取り上げられています。通りのほぼ中央部にあたるモミジオフィスで、建築や不動産の業務を行なっている株式会社スタジオ代表取締役の塩田大成さんが、もみじ通りに活動拠点を定めたのは平成22年のこと。

「ここで仕事を始めてみると、身近なところで昼食をとったり、ひと息入れられるような店舗が欲しくなりました。それで、あちこちで『こういう店が欲しいんですよ』と言っていたら、西那須野で店舗を持っている人が、宇都宮に移転したがついているという話がありました。さっそくそのお店にまずお客として行ってみたら、料理もおいしいし、オーナーさんとも話が合いそうだったので声をかけてみたのです」

オーナーも、塩田さんが以前から運営しているネット上の不動産屋「MET不動産」(http://www.metcm/)を知っていたため、その後はスムーズに話が進み、平成23年1月に「FAR EAST KITCHEN (ファー・イースト・キッチン)」として開店しました。

その後、お惣菜屋さんや子供服屋、カフェ、ドーナツショップ、楽器店などが順次オープンしています。

「私が取り持ったのは6店舗ですが、その他にカフェレストランや和食の料理店などもオープンしています」

塩田さんが仲介して出店した人の多くは、地元に着のある人で、もみじ通り周辺を生活圏にしている人がめだちます。

「私自身もこの地域に住んでいますし、できればそういう店を増やしたいと考えています。店舗が地域の人たちと共存でき、お互いに支え合えるようなところを増やしていきたい」

中心にあるのは、あくまで「地域」という発想なので、オフアがあつてもすぐに物件を紹介することはせず、まずじっくりと話し合った上で、少しずつ進めているとのこと。



最近できたばかりの「スズメレコード」



カマガワ デパートメント コミュニケーションが育む 地域の魅力と表層化



Manual Design
アートディレクター
上澤 裕一さん
☎ 028-680-6770



8月25日に、釜川改修20周年記念として、宇都宮まちづくり推進機構による「鮎のつかみどり」「浴衣まつり」などが行なわれ多くの人が集まりました。同じ日に協賛イベントとして釜川沿いの商店が主体となつて開催されたのが「カマガワ デパートメント」というイベントでした。

午後3時から午後9時まで開催されたこのイベントには、釜川沿いのお店はもちろん、宇都宮市内の魅力あるお店も参加。にぎやかな青空市となりました。

イベントの運営を主催したのは商店た

「いままでのお店や、地域の人たちにも受け入れていただけるようなお店を、増やしたいですね」

メディアで紹介されるようになって、場所も見ずに「出店したい」という問い合わせも増えたそうです。

「そういう人は実際に来て、もみじ通りの今の姿を見ていただくと、それっきりになることが多いです」と笑う塩田さん。

「増えたと言ってもたった6店舗ですよ。なぜ注目されているのか、本当はよく分からないんです(笑)」

確かに、現在のもみじ通りは、まだまだ

「栄えている」という状態ではなく、新しいお店もぼつりぼつりといった印象を受けます。

「私は、地域が住みやすくなつて個性が確立することが、重要だと考えています。地域がきちんと成立し、地域のメリットが生まれてくるようなお店に出て欲しいし、そのお手伝いをしたいと思っています」

もともとは「『あつたらいいな』と自分が思うお店に出てもらっている」という塩田さん。従来型の地域再開発ではない、自然体で地域の生活者主体の思想・手法こそが、注目されているのではないのでしょうか。

特集1
まちなかの
新しい波

Natural Innovation



宇都宮の新しいまちおこしのキーマンたち

「まちなか」に 生まれてきた、新しい“まち”



若い世代の、自然体イノベーション



宇都宮の中心商業地では、さまざまな動きが現れています。前号でご紹介した「宮コン」は、その代表格ですが、他にもさまざまな新しい波を見ることができます。今回は、いま注目されている新しいまちづくりについてご紹介します。



もみじ通り 昔からの商店街に 新しい息吹を



中心商店街の西に位置する「もみじ通り」は、過去には商業圏として賑わったものの、近年は商店街組織も解散し、通りを歩いてみても店舗ではない一般住宅が多くなりました。また、店舗の看板は残っているものの、シャッターを下ろしたままのお店も少なくありません。

「最近、宇都宮の中心部は活気が出て来たな」と感じる方が増えています。

「他県から来たのですが、人がたくさんいるので、びつくりしました」イベントで出会った方から、そんな感想をいただくことも珍しくなりました。

もちろん、シャッターを下ろしたままの店舗もまだまだ目立ちますし、平日の昼間には、昔の賑わいを知っている人が「人出が少ないなあ」とこぼしてしまうような状態の日もあります。その一方で「少し違って来た、何だかおもしろいところが増えていく」という声も、若者を中心に出て来ています。

当所地域振興部の村上幸雄部長は「実際に街の中を歩いてみて、変化を体感して

ください」と言います。

「オリオン通りやユニオン通りには学生が運営する店舗があったり、商店街が管理運営するイベントスペースができたりにしています。

オリオンスクエアやパンバひろばでは、毎週のようにイベントが開催され、多くの人で賑わいます。広場だけでなく、通り全体を使ったイベントも珍しくなくなってきました。

また、もみじ通りや釜川プロムナードには新しい店舗が増え、地域で生活する人にも親しまれつつあります。

さらには、インターネットを活用した情報発信も、まだボランティアベースとはいえ、次第に注目されてきつつあります」

さまざまな新しい動きが、じわじわと広がっていくようです。



(株)ビルスタジオ
代表取締役
塩田 大成さん
☎ 028-636-5136



街づくり大学が運営する「サンセットマルシェ」

UTSUNOMIYA

「公務員、大学教授、主婦、企業経営者、学生など、メンバーは本当に多種多様です。真剣に宇都宮の未来を考えている人が話し合う場となっています」とはいえほぼ全員が、イベントについてもまちづくりについても、いわば「よそ者」であり「素人」。

「私たちがよそ者で素人だからこそ、私たちの活動を見ていた人が『自分にもできるんじゃないか』と思ってくれる。そこが重要だと思います。実際に、私たちに刺激されて始まったムーブメントもあります」

定期的な街の清掃や、宇都宮の魅力を見て歩くイベント、昼間のお見合いイベントなど、毎年さまざまな趣向をこらした「まちづくりイベント」「宇都宮の魅力アップ

活動されています。

宇都宮出身の上澤さんは学校を卒業後、東京のデザイン事務所に就職し、大手企業のブランディングを担当するなど活躍。その後、宇都宮に戻り、昨年、現在の場所に事務所を構えました。

「イベントには、飲食店、服飾・雑貨店、作家さんなどのお店が41店舗も参加してくれました。3分の1は釜川の店。その他のお店やミュージシャンの方々は、私たちスタッフが声をかけてお誘いしました」

むやみに集めたのではなく、きちんとした「最終イメージ」を持った上で出店をお願いして行なったことも、成功の要因でしょう。

「来た人に釜川のおもしろさをきちんと伝える。購買以外でも楽しんでもらう。それが本イベントの最終イメージでした」



携わるみんなで地域の魅力を発見し、それを目に見えるカタチにしていこう、その過程の重要性を、上澤さんは指摘します。

「釜川のみならず話していくなかで、街なかで緑に囲まれながら過ごせるのが、釜川の魅力だと気づきました。そのイメージを損なわないよう、空間を自然物で統一したい。そこで、空間演出には竹を使用しました。釜川の源流にはたくさん竹が生えているんです。それを知るとすぐに、みんなで竹の切り出しに行き、加工

多数の若者が集まったカマガワ デパートメント



イベント」を行なっています。

その集大成と言っても過言ではないのが、2年前から定期的に開催している「サンセットマルシェ in オリオン」。今年も10月27日に、オリオン通りやオリオンスクエアなどを会場にして開催されました。

「朝ではなく夕方開催しているのは、買う人の利便性を考えたことと、当日収穫された農作物を販売したいから。夕方に開催する方が、農家の方の負担も少なく、しかも午前採れたばかりの新鮮な野菜を販売できるのです」

安売りではなく、適正価格。他では見られないような高級食材なども販売する——最近流行のマルシェですが、サンセットマルシェは「出店者にもお客様にも喜んでもらう」仕掛けを、きちんと詰めて準備しています。

現在、オリオン通りにはオリオン通り商店街振興組合とオリオン通り曲師町商業協同組合の2つの商店街組織があり、予算や事業計画もそれぞれ違っていることもあって、通り全体での統一的なイベントは少なくなっています。

「今回のマルシェでは、全部ではないですが、両方の商店街にわたって会場設定することができました。こういうことも、私たちが今まで純粋に『街のため』と思ってやってきた事が、認められたからなのだと思います。メンバーが限られているので、一つひとつの行事に準備時間がかかっています。その分、いかに実行して、今後もまちにプラス効果をもたらす活動を重ねていきたいと思っています」

しました。大変でしたが、地域の店同士のコミュニケーションが深まりましたし、準備作業を見た地域の方たちとも親しくなれました」

「店同士のつながりや、店と地域との親交をもっと深めていきたい。地域の人の手でコミュニティを形成すれば、ファンや出店希望のお店をフォローしやすくなる。地域に主体性があるからこそ、そこに達成感が生まれますし、もっとよくしていきたいと思えるはず」と、上澤さん。



宇都宮街づくり大学 素人だからこそできる 新たなイベント

オリオン通りの中央部で紅茶専門店「Y's Tea (ワイズティー)」を営む根本泰昌さんは、まちづくりを考える有志の市民団体「宇都宮街づくり大学」の代表でもあります。

「代表といっても、私が活動を決めるわけではありません。あくまでメンバーがやりたいことを提案し、それを話し合っ決めていきます」

もともと「宇都宮の活性化に寄与したい」と考えて平成19年に現在の場所に紅茶専門店を開業した根本さん。オリオン通りにこだわったのも「お店で通りを見ながら、まちづくりの議論をしていきたい」



商店街の連携 活性化に寄与する イベントの増加

約10年の活動実績を持ち、平成22年にNPO法人となった「宇都宮中心商店街活性化委員会」（斎藤公則会長）や、平成18年に発足した「宇都宮中心商店街みやヒルズ活性化委員会」（金子裕司会長、以下「みやヒルズ活性化委員会」）は、いずれも複数の商店街や大型店が連携して活動することにより、従来以上の活性化を実現することをめざしています。

宇都宮中心商店街活性化委員会は、現在9団体が参加。事務所のある表参道スクエアに隣接するパンバ市民広場などの指定管



宇都宮中心商店街活性化委員会が管理する「パンバ市民広場」でのイベント「サースデザインフェバー」

イベントの開催がゴールではなく、それを活用して地域形成に役立てることが、上澤さんたちの大きな目的の一つでした。釜川沿いの店は、メインストリートである大通りやオリオン通りなどに対し、いわば「路地」の役割を担っています。地域の持つそういった魅力を踏まえた上で、どのような地域デザインを行っていくのか——今後の釜川沿いの動向が注目されます。



宇都宮街づくり大学
代表 根本 泰昌 さん
(ワイズティーネットワーク(株) 代表取締役)
☎ 028-639-6601

という〈現場主義〉があったからです。その思いが通じて、まちづくりを話し合うメンバーも徐々に増え、現在は15人で定員制になつているとのこと。



宇都宮中心商店街みやヒルズ活性化委員会主催の「みやヒルズ祭り なつかしの盆踊り」

理者となって、さまざまな市民イベントを支援している他、桜まつりや夏まつりなど自主イベントも実施しています。自主イベントでスタートし、現在は運営を委託しているマルシェ+ライブ演奏の「サースデザインナイトワイパー」は、毎月2回開催（冬期は休み）され、若者を中心に多くの人でにぎわっています。

みやヒルズ活性化委員会は東武宇都宮百貨店および周辺の4商店街によって構成されており、これまでもスタンプラリーや「みやのひなまつり」、「みやヒルズまつり」などの活性化イベントを開催してきました。今年の8月25日には、東武馬車道通りなど周辺道路を通行止めにして、東武宇都宮百貨店正面玄関前交差点で盆踊り大会「みやヒルズ祭り なつかしの盆踊り」を開催。約1万人が参加したイベントになりました。

宇都宮中心商店街活性化委員会の試みは、直接の運営だけでなく広場管理という手法で活性化に寄与するもので、街のイメージに合致する方向への支援が可能です。ため、さまざまな効果が期待できます。みや



手作り感あふれる「ミヤラジ」放送の現場

Natural Innovation

地元ミュージシャンのライブ演奏があったり、多彩な構成になっていると思います」
 このような放送局の役割について稲葉さんは、「東京の放送局の番組では、あまり地元の情報は出ません。ましてや、地元中小企業や中心商店街、市民などが情報の発信者になることはあまりありません。ミヤラジでは、こうした人たちに気軽に情報発信をしてほしいと思っています。その上インターネットですから、宇都宮だけでなく全国どこからでもみられます。放送内容はネット上に録画が残っているもので、生放送に間に合わなくても、後から見ることが出来る自由さもありますね」

スタート時点では出演交渉も大変だったと言いますが、現在では逆に「出たい」という申し込みも多く「ああ、認知されてきたな」と実感するそうです。

ヒルス活性化委員会の「盆踊り」は、古くからある行事（盆踊り）を、新しい形で復活させ、活性化に寄与させたもの。お年寄りには懐かしく、若者には新しく感じられるメリットがあります。

こうした、商店街単位の活動だけではなく商店街同士の連携による新しいイベントを創造することにより、宇都宮にこれまでにない表情を与え、中心部への集客効果が現れて来ています。



宇都宮中心商店街みやヒルス活性化委員会主催の「みやヒルス祭り なつかしの盆踊り」



ユニオン通りで開催されるフリーマーケット「028商店街」



COMMUNITY OF A SHOPPING CENTER

ユニオン通りでは定期的にフリーマーケット「028商店街」を開催しています。特に11月4日（日）の「宮の市“や”ミヤ・ジャズイン”に合わせて開催した時には多数の人が訪れ、大きなにぎわいとなりました。また同じユニオン通りの飲食店が中心となつて、チケット制で飲み歩きができるイベント「宇都宮バル街」も10月に開催され、注目を集めています。

こうした「従来の商店街から生まれた新しいムーブメント」も、宇都宮の活気に大きく貢献をしています。



宇都宮商工会議所
地域振興部
村上 幸雄 部長

今までの情報発信は、マスコミを使う方法か、自分でホームページを立ち上げてみてもらう方法が主流でした。最近ではフェイスブックやツイッターといったインターネットサービスを活用することもできるようになりましたが、動画での情報発信はまだまだ敷居が高いようです。その中でミヤラジが宇都宮の情報を発信し続けることは、地域活性化に大きな役割を果たしていると言っているでしょう。

ここまで見て来たさまざまな活性化の動きも、情報発信しなければなかなか外には伝わりません。ミヤラジのような新形態のメディアの登場は、今後の宇都宮にとってもプラスになっていくのではないのでしょうか。

「最終的には、やっぱりコミュニティFM局も立ち上げたいですね。もつとたくさんの方に出演していただきたいですし、地域に住む外国人に向けた番組も作ってきたい。これからのいろいろなことがたくさんありますよ」と話す稲葉さん。そのためにもNPOなどの法人格を取得し、協賛企業を募って財政基盤を確立したいとも考えています。

05 Natural Innovation

中心部からの情報発信 インターネット放送局 「ミヤラジ」



宇都宮の魅力や情報を動画で配信しているインターネット放送局が「ミヤラジ」（宇都宮愉快な情報局運営委員会）です。名前は「ラジ」（＝ラジオ）ですが、形態はインターネットを使った動画配信。いわばネットテレビの生中継です。（<http://www.ustream.tv/channel/miyaraji>）。

「コミュニティFM局は全国に約250局もありますが、1局もないのは全国で栃木県だけ。地域情報を発信するために、ぜひ欲しいと思いました。ただ、実現させるにはいろいろなステップを踏まなくてはならないので、徐々に準備をしようと考えていた矢先に、東日本大震災が発生しました。この時に情報発信の重要性をいっそう痛感し『電波にこだわらず、やれるところから始めよう』と決めたのが、インターネット放送局としてのミヤラジのスタートでした」

ミヤラジ
代表 稲葉 克明さん
（株）メディアムーブメント代表取締役
☎ 028-908-4020



放送は週1回、水曜日の午後7時から約1時間の生放送です。ユニークなのは、専用のスタジオを持たず、毎回、宇都宮の中心部の飲食店やカフェ、ギャラリーなどに機材を持ち込み、即席のスタジオをつくらせて放送していることです。

「現時点の運営メンバーは10人ほど。全員報酬無しのサークル活動のようなもので、それぞれに本業を持っていて、顔ぶれも多彩です。いくつかのコーナーに分かれています。イベントの告知などで主催者の方に出演していただくことが多いです。また、プロスポーツ選手のトークがあったり、

06 Natural Innovation

まとめ 地域の力を ネットワークイング



（株）マチヅクリ・ラボラトリー
代表取締役 村瀬 正尊さん
☎ 028-612-6508

12月1日に、宇都宮市千波町に、コワーキングや起業支援などを目的とした施設「Hottan」がオープンしました。

1階は、カフェを起業したい人が安く入居し、期間を定めて運営する、いわばカフェのチャレンジシヨブ「カフェスタジオ」。2階、3階はまだオフィスのない起業家のための事務所スペースで、大きな机を共有し、必要に応じてコミュニケーションをとりながら、仕事を進めていくものです。

ここを運営するのが（株）マチヅクリ・ラボラトリー代表取締役の村瀬正尊さん。地域振興のコンサルティングを手がけ、栃木県内でもさまざまなまちおこしに関わっています。

村瀬さんは、ネットワークの重要性について「若者は、何かをやるうとしても力が足りません。栃木県内では、特に、若い人のアイデアを吸い上げて活かす土壌が少ない。起業したい、店を持つて、立したいという夢があっても、どうやっていいのかわからない。そういう人が「Hottan」で互いに出会って情報交換をすることで、チームやネットワークを構築することにより、力をつけてほしいと思います」と言います。

「地域活性化は、地元の人が

地元でイノベーションをやるのが大切。そのためのキーマンを発見し、育てることも、この事務所の活動を通じて実現していきたいと思っています」
 確かに、今回の事例を振り返ると、必ずキーマンがいて、それを囲む形で新しい動きができています。そして、実はそれぞれのキーマン同士は互いに知り合っており、そこから「個々のイノベーション」を「全体のムーブメント」へと拡大しつつあるのが現状です。まだまだはつきりとした形にはなっていませんが、宇都宮だけでなく栃木県内でも個々の動きが連動する気運があり、地域活性化に大きな力となっていくと思われます。

当所地域振興部の村上部長は、「これまでのように『上が作り、下が従う』方式ではなく、地域の若手が自主的に活動して行くことで、本当の地域力が生まれてくるのだと思います。今後とも、商工会議所としてさまざまな形で支援して行きたいと思っています。何かあれば、ぜひ商工会議所に相談にきてください」と話しています。